

## エレミヤ書40-43章 「最後までの不従順」

### アウトライン

#### 1A 権威への憎しみ 40-41

##### 1B 立てられた総督 40

###### 1C エレミヤの愛 1-6

###### 2C 御心にある平安 7-12

###### 3C 反対分子 13-16

##### 2B 自惚れたテロリスト 41

###### 1C 裏切り 1-3

###### 2C 偽り 4-10

###### 3C 救出 11-18

#### 2A 権威への恐れ 42-43

##### 1B 自分を偽る祈り願い 42

###### 1C 既に決めた事 1-6

###### 2C 神の警告 7-22

###### 1D 二つの道 7-18

###### 2D 迷い出た心 19-22

##### 2B 真実への反発 43

###### 1C 高ぶった者たち 1-7

###### 2C エジプトにおけるバビロンの王座 8-13

### 本文

エレミヤ書 40 章を開いてください、今日は 40 章から 43 章までを学びたいと思います。ついに、エルサレムが陥落しました。その後にはわずかに残っているユダの人々がどのようになったかを見ていきます。非常に残念なことに、バビロンがエルサレムを滅ぼした後になっても、彼らは教訓を学ぶことはありませんでした。

#### 1A 権威への憎しみ 40-41

##### 1B 立てられた総督 40

###### 1C エレミヤの愛 1-6

40:1 侍従長ネブザルアダンがラマからエレミヤを釈放して後に、主からエレミヤにあったみことば。..彼がエレミヤを連れ出したとき、エレミヤは、バビロンへ引いて行かれるエルサレムとユダの捕囚の民の中で、鎖につながれていた。..

バビロンはエルサレムを倒した後、ユダの人々をまずベニヤミンの地にあるラマという町に集めました。そこからバビロンに捕え移したのですが、エレミヤはそこで釈放されました。

40:2 侍従長はエレミヤを連れ出して、彼に言った。「あなたの神、主は、この所にこのわざわいを下すと語られたが、40:3 主はこれを下し、語られたとおりに行なわれた。あなたがたが主に罪を犯して、その御声に聞き従わなかったので、このことがあなたがたに下ったのだ。40:4 そこで今、見よ、私はきょう、あなたの手にある鎖を解いてあなたを釈放する。もし、私とともにバビロンへ行くのがよいと思うなら、行きなさい。私はあなたに目をかけよう。しかし、もし、私といっしょにバビロンへ行くのが気に入らないならやめなさい。見よ。全地はあなたの前に広がっている。あなたが行くのによいと思う、気に入った所へ行きなさい。」

非常に興味深い発言です。侍従長はもちろん異教徒であり、イスラエルの神を信じていません。けれども彼は、何度となくエレミヤの預言が耳に入ってきていたのでしょう。それがその通りになったので、異教徒でさえもが、主がなされたことを認めています。そして侍従長は、エレミヤに完全な自由を与えました。バビロンに一緒に行きたいなら行っても良いし、それが嫌なら行かなくてもよい。好きなようにしなさい、と言われました。私たちはこのような時に、自分の愛がどこにあるかが試されます。自分が何をしても良いといわれた時に、私たちはどこに行き、何をするでしょうか？

40:5 しかし彼がまだ帰ろうとしないので、「では、バビロンの王がユダの町々をゆだねたシャファンの子アヒカムの子ゲダルヤのところへ帰り、彼とともに民の中に住みなさい。でなければ、あなたが行きたいと思う所へ、どこへでも行きなさい。」こうして侍従長は、食糧と贈り物を与えて、彼を去らせた。40:6 そこでエレミヤは、ミツパにいるアヒカムの子ゲダルヤのところに行って、彼とともに、国に残された民の中に住んだ。

エレミヤは、残された民のほうを選びました。39 章に、ネブザルアダンが「何も持たない貧民の一部をユダの地に残し」とあります(10 節)。その他、他の地域に逃げていた人々などもありますが、このような人々のところにエレミヤはとどまったのです。バビロンに行けば、必ずや良い生活ができたでしょうか、エレミヤは彼らと共にいました。ここに、エレミヤのユダの人々に対する愛を見ることができます。真の愛は、その人たちといっしょにいます。彼らの側に立ちます。彼らと一つになります。その模範はイエス様ご自身です。肉体を持って生まれ、そして水のバプテスマを受けられて、神が人と一つにあってることを示されました。

## 2C 御心にある平安 7-12

40:7 野にいた将校たちとその部下たちはみな、バビロンの王がアヒカムの子ゲダルヤをその国の総督にし、彼に、バビロンに捕え移されなかった男、女、子どもたち、国の貧民たちをゆだねたことを聞いた。40:8 ネタヌヤの子イシュマエル、カレアハの子らヨハナンとヨナタン、タヌフメテの子セラヤ、ネトファ人エファイの子ら、マアカ人の子エザヌヤと、彼らの部下たちは、ミツパにいる

ゲダルヤのもとに来た。

ユダの国はバビロンに倒されたのですが、残った人々がいます。エルサレムが倒された時に、外で戦っていた将校たちがまだいました。彼らが、戦後処理としてバビロンが、ユダの民を取りまとめるようにゲダルヤをユダ州の総督として立てたことを知りました。それでそこに集結しました。そして場所は「ミツパ」です。ミツパという名称の町はいくつかあるのですが、このミツパはベニヤミンの地の、エルサレムの北にある町です。エルサレムは既に焼き払われていますから、そこを中心の町とすることはできず、ミツパがユダ州の行政中心地となりました。

40:9 そこで、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤは、彼らとその部下たちに誓って言った。「カルデヤ人に仕えることを恐れてはならない。この国に住んで、バビロンの王に仕えなさい。そうすれば、あなたがたはしあわせになる。40:10 私も、このように、ミツパに住んで、私たちのところに来るカルデヤ人の前に立とう。あなたがたも、ぶどう酒、夏のくだもの、油を集めて、自分の器に納め、あなたがたの取った町々に住むがよい。」

ゲダルヤが、どういう人物であったかを思い出しましょう。彼は、「シャファンの子アヒカムの子」とあります。ヨシヤの前で律法を読んだのが、シャファンです(2列王 22:10)。エレミヤの預言をきちんと聞いていた人でした。そしてアヒカムは、ヨシヤが女預言者フルダのところに遣わした一人でありました(14 節)。それから、アヒカムが、エレミヤが神の宮で預言を行ない、それで祭司と預言者、民が彼を殺そうとしたけれども、殺されることないように匿った人です(エレミヤ 26:24)。その息子がゲダルヤです。ですから彼が教えていることは、エレミヤの言葉の適用です。

そして、これからミツパの中で小さいけれどもユダヤ人の共同生活を建てていこうと呼びかけています。それで、取れた作物やぶどう酒など、まずは一つに集め、そして配給するという、行政の働きを始めようとしています。これからはユダの国ではなく、バビロンのユダ州の中での生活です。

40:11 モアブや、アモン人のところや、エドムや、あらゆる地方にいたユダヤ人はみな、バビロンの王がユダに人を残したこと、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを彼らの総督に任命したことを聞いた。40:12 そこで、ユダヤ人はみな、散らされていたすべての所からユダの地に帰って来て、ミツパのゲダルヤのもとに行き、ぶどう酒と夏のくだものを非常に多く集めた。

ユダヤ人には、このようにバビロンとの戦いの中で、ユダの地を離れ、周囲の国々に逃げ隠れていた人々がいたようです。彼らが、ゲダルヤがミツパで総督になったことを聞き、喜んでぶどう酒や果物を数多く集めてきました。

### 3C 反対分子 13-16

40:13 さて、野にいたカレアハの子ヨハナンと、すべての将校たちは、ミツパのゲダルヤのもとに

来て、40:14 彼に言った。「あなたは、アモン人の王バアリスがネタヌヤの子イシュマエルを送って、あなたを打ち殺そうとしているのを、いったい、ご存じですか。」しかし、アヒカムの子ゲダルヤは、彼らの言うことを信じなかった。

しばらくしてからゲダルヤの周囲に不穏な動きが出てきました。将校の一人であるイシュマエルが、ゲダルヤを暗殺しようとしているという知らせです。41 章 1 節によると、イシュマエルは王族の一人です。自分は王になるべき人間であり、バビロンに仕えることは到底できないという自負心、そして愛国心があったのでしょう。対して、ゲダルヤは書記の子であります。バビロンに対する敵意があり、そして王族ではないものが治めているという屈辱感が、彼をゲダルヤ暗殺に向かわせています。

そして、アモン人の汚い陰謀があります。アモンの王がイシュマエルを送っているとのこと。なぜアモンなのでしょう？アモンはユダと同じく、バビロンに従属した国となっていました。エレミヤ書 27 章で学びましたが、従属した国々の使者がエルサレムに集まって、バビロンに反抗すべく同盟を結びました。その中にアモンがあります。紀元前 588 年、エジプトがバビロンに齒向かうように、アモンとユダとツロに対して促しました。ネブカデネザルはまずユダを倒し、それからツロを倒しました。ゼデキヤがエリコの平原、ヨルダン川のほうに逃げたのは、おそらくアモンに救援を求めるかもしれないと思ったからでしょう。けれどもアモンは、自分たちは免れることができたと思って、ユダが滅んだのを喜んでいました(エレミヤ 49 章)。ところが、ユダの地に平和が戻ってきます。その地が安定したら、バビロンは今度自分たちを攻めてくるかもしれないと思い、ユダの地をいつまでも不安定にしておき、バビロンの目が自分たちに向かないようにしたと考えられます。

というわけで、バビロン、そして総督ゲダルヤに敵意を抱いていたイシュマエルをアモンの王が雇ったのです。この情報を、ヨハナンを始めとする他の将校らが、自分たちの諜報活動の中で知るに至りました。

40:15 カレアハの子ヨハナンは、ミツパでひそかにゲダルヤに話して言った。「では、私が行って、ネタヌヤの子イシュマエルを、だれにもわからないように、打ち殺しましょう。どうして、彼があなたを打ち殺し、あなたのもとに集められた全ユダヤ人が散らされ、ユダの残りの者が滅びてよいでしょうか。」40:16 しかし、アヒカムの子ゲダルヤは、カレアハの子ヨハナンに言った。「そんなことをしてはならない。あなたこそ、イシュマエルについて偽りを語っているからだ。」

ヨハナンは将校として有能な人であったことを伺わせます。ユダの人たちのゆえ、総督ゲダルヤを守らなければいけない。そしてその為に、隠密に先制攻撃をしたほうがよい、という助言ですが、政治的判断力はとても優れています。けれどもゲダルヤ本人は、こうした現実的な危機に対して無頓着でした。ヨハナンの助言を聞くどころか、彼がイシュマエルをねたんで、彼について悪を言いふらしているだけだと思ったのです。

## 2B 自惚れたテロリスト 41

### 1C 裏切り 1-3

41:1 ところが第七の月に、王族のひとり、エリシャマの子ネタヌヤの子イシュマエルは、王の高官と十人の部下を連れて、ミツパにいるアヒカムの子ゲダルヤのもとに来て、ミツパで食事を共にした。41:2 そのとき、ネタヌヤの子イシュマエルと、彼とともにいた十人の部下は立ち上がって、シヤファンの子アヒカムの子ゲダルヤを剣で打ち殺した。イシュマエルは、バビロンの王がこの国の総督にした者を殺した。41:3 ミツパでゲダルヤとともにいたすべてのユダヤ人と、そこに居合わせたカルデヤ人の戦士たちをも、イシュマエルは打ち殺した。

聖書時代、食事を共にすることは、互いに一つになるという大きな意味を持っていました。それは平和と交わりの象徴であったのですが、その場を使って裏切り行為をイシュマエルは働きました。これは、今の言葉で言うならばまさにテロリストです。

### 2C 偽り 4-10

41:4 ゲダルヤが殺された次の日、まだだれも知らないとき、41:5 シェケムや、シロや、サマリヤから八十人の者がやって来た。彼らはみな、ひげをそり、衣を裂き、身に傷をつけ、手に穀物のさげ物や乳香を持って、主の宮に持って行こうとしていた。

これは驚くべき記録です。シェケム、シロ、サマリヤはもちろん、北イスラエルだったところです。彼らがエルサレムの破壊を聞いて、なき悲しみながら、その残骸の中で主を礼拝しようとしていたのです。第七の月ですから、仮庵の祭りに合わせてやってきたのだらうと思われれます。

北イスラエルは、ヤロブアムがダンとベテルに金の子牛を置いてからは、彼らはユダヤ教と偶像礼拝を混合させた宗教を拝んでいました。また紀元前 722 年にアッシリヤによって滅ぼされ、多くが捕え移され、異邦人が代わりにそこに入ってきました。ユダヤ人と異邦人の混血の民サマリヤ人が出てきて、またサマリヤ人の宗教も始まりました。どうして、このように主に礼拝する人々がいたのでしょうか？南ユダで二度、宗教改革が行なわれています。ヒゼキヤは、過越の祭りを祝うために北イスラエルの地域にまで呼びかけました(2歴代 29:5)。そして、ヨシヤが宗教改革を行ないました。彼も北イスラエルの地域にまで行って、バアルやアシェラ像を切り倒しています(2列王 23:15)。ここに、主は必ずご自分の民を必ず残しておられることを知ります。

41:6 ネタヌヤの子イシュマエルは、彼らを迎えるにミツパを出て、泣きながら歩いて行き、彼らに出会ったとき、言った。「アヒカムの子ゲダルヤのところにおいでなさい。」41:7 彼らが町の中にはいったとき、ネタヌヤの子イシュマエルと、彼とともにいた部下たちは、彼らを殺して穴の中に投げ入れた。41:8 彼らのうちの十人がイシュマエルに、「私たちを殺さないでください。私たちは、小麦、大麦、油、蜜を畑に隠していますから。」と言ったので、彼は、彼らをその仲間とともに殺すのはや

めた。41:9 イシュマエルが打ち殺した、ゲダルヤの指揮下の人たちのすべての死体を投げ入れた穴は、アサ王がイスラエルの王バシヤを恐れて作ったものであった。ネタヌヤの子イシュマエルはそれを、殺された者で満たした。

恐ろしいですね、自分が神の礼拝者であるかのように偽って、仲間のイスラエル人を殺害しています。サマリヤの地域から来た人々は、ユダの国が滅んだ後、新しくミツパでユダ州の行政が始まったことを知りませんでした。それでイシュマエルは彼らをミツパに誘って、そして殺したのです。そして、ミツパの町はかつてアサ王が北イスラエルの王バシヤに対抗して、その国境の辺りに建てたものです。その穴は貯水槽のために作ったのだと思いますが、防空壕代わりにしていたようです。そこにゲダルヤを含めて殺した者を満たしました。

41:10 イシュマエルは、ミツパに残っていたすべての民、すなわち王の娘たちと、侍従長ネブザルアダンがアヒカムの子ゲダルヤにゆだねた、ミツパに残っていたすべての民とをとりこにした。ネタヌヤの子イシュマエルは彼らをとりこにして、アモン人のところに渡ろうとして出かけて行った。

ミツパにいて、平穏に暮らしていたユダヤ人たちが、アモンに捕え移されそうになっています。

### 3C 救出 11-18

41:11 カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいたすべての将校は、ネタヌヤの子イシュマエルが行なったすべての悪を聞いたので、41:12 部下をみな連れて、ネタヌヤの子イシュマエルと戦うために出て行き、ギブオンにある大池のほとりで彼を見つけた。41:13 イシュマエルとともにいたすべての民は、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいるすべての将校を見て喜んだ。41:14 イシュマエルがミツパからとりこにして来たすべての民は身を翻して、カレアハの子ヨハナンのもとに帰って行った。41:15 ネタヌヤの子イシュマエルは、八人の者とともによハナンの前をのがれて、アモン人のところへ行った。

ギブオンは、ミツパの南西にある隣町です。恐怖と暴力で付いてきていたユダヤ人は、すぐさまヨハナンのほうに逃げてきました。これで無事にイシュマエルの手から離れることができました。

41:16 カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいたすべての将校は、ネタヌヤの子イシュマエルがアヒカムの子ゲダルヤを打ち殺して後、ミツパから、ネタヌヤの子イシュマエルから取り返したすべての残りの民、すなわちギブオンから連れ帰った勇士たち、戦士たち、女たち、子どもたち、および宦官たちを連れて、41:17 エジプトに行こうとして、ベツレヘムのかたわらにあるゲルテ・キムナムへ行って、そこにとどまった。41:18 それは、バビロンの王がこの国の総督としたアヒカムの子ゲダルヤをネタヌヤの子イシュマエルが打ち殺したので、カルデヤ人を恐れて、彼らから逃げるためであった。

ここからが実は本題に入ります。ヨハナンが「バビロンの任命した総督をユダヤ人が殺してしまつた今、我々はここに住めなくなつてしまつた。」と判断し、それでエジプトに行こうとしたことあります。ここまで見るように、ヨハナンは有能な将校でした。バビロンの怒りが間もなく来るといふのは、普通で考えればその通りなのです。それで彼らは何とか早く、ユダの地から逃げ、安住できる場所としてエジプトの地を求めたのです。今、ミツパから南にさがって、ベツレヘムの近くまでやって来ています。

## **2A 権威への恐れ 42-43**

### 1B 自分を偽る祈り願い 42

#### 1C 既に決めた事 1-6

42:1 すべての将校たち、カレアハの子ヨハナン、ホシャの子イザヌヤ、および身分の低い者も高い者もみな、寄つて来て、42:2 預言者エレミヤに言った。「どうぞ、私たちの願いを聞いてください。私たちのため、この残つた者みなのために、あなたの神、主に、祈ってください。ご覧のとおり、私たちは多くの者の中からごくわずかだけ残つたのです。42:3 あなたの神、主が、私たちの歩むべき道と、なすべきことを私たちに教えてくださいますように。」42:4 そこで、預言者エレミヤは彼らに言った。「承知しました。今、私は、あなたがたのことばのとおり、あなたがたの神、主に祈り、主があなたがたに答えられることはみな、あなたがたに告げましょう。何事も、あなたがたに隠しません。」42:5 彼らはエレミヤに言った。「主が私たちの間で真実な確かな証人でありますように。私たちは、すべてあなたの神、主が私たちのためにあなたを送つて告げられることばのとおり、必ず行ないます。42:6 私たちは良くて悪くても、あなたを遣わされた私たちの神、主の御声に聞き従います。私たちが私たちの神、主の御声に聞き従つてしあわせを得るためです。」

これはこれは、凄いですね。表向きは、彼ら以上に誠実になることはできないほど、誠実ですね。将校たちが、全ての人々を集めています。そしてエレミヤに対して、主の御心を求めて祈つてほしいと言っています。エレミヤは快く答えています。そして彼らの返答は、模範解答、教科書のような言葉を語っています。5 節からですが、第一に確かにエレミヤが主のことを伝え、真実を伝えてくれるようにと祈っています。第二に、告げられたことは必ず行ないます、と言っています。第三に、良くて悪くても、御声に聞き従うと言っています。これは凄いですね、たとえ自分たちに不都合なことであっても、それでも御声を選び取ると言っているのです。そして第四に、御声に聞き従ふことこそが、幸せを得る道であるということです。

しかし、ここで実は根本的な過ちがあります。それは、「誓っている」あるいは「約束している」ということです。旧約聖書には、「あなたがたは、わたしの名によって、偽つて誓つてはならない。(レビ 19:12)」そして、新約聖書にはイエス様が、「決して誓つてはいけません。(マタイ 5:34)」とされています。私たちもしばしば、経験するのではないのでしょうか。何かに失敗して、それを何度となく繰り返して、それで、「私は、もう二度と、このことを行ないません。必ず、このことについてはやめていきます。」と言います。けれども、やはり行ないません。

ここには、どんな問題があるのでしょうか？一つに、「神に良くしてもらいたい」という思いがあります。自分に後ろめたさがある、負い目がある時に、むしろ行動に駆り立てられることはないでしょうか？それは、その罪意識をなんとか償おうとしているからです。もう一つの問題は、自分の肉に頼っていることです。「必ず、これこれを行ないます。」と言っている時の主語を考えてください。「私は、必ずこれこれを行ないます。」と言っているのです。私は、という主語が入ったら、ローマ 7 章を思い出してください。パウロは、「私は善を行ないたいのに、悪を行なっている。」という敗北の言葉を、何回も繰り返しています。ペテロがイエス様に言った言葉も思い出すと良いでしょう。「私はたとえ死んでも、あなたに付いていきます。」と言って、それですぐ後に三度、イエス様を知らないと言いました。そして三つ目の問題があります。それは、「人をだますし、自分自身もだます。」ということです。これだけの模範的な言葉は、この人たちは信仰が深く、霊的だと思わせます。けれども、行ないが伴っていないことが後で明らかになります。けれども、可哀想なのは自分自身も分からなくなる、ということです。自分自身も、本当はやるつもりはないのに、やるのだという決意を固めていることさえあります。

では、どうやったら偽りの誓いから守られるでしょうか？一つ目は、負い目は、神はずでに取り除いてくださったことを知ることで。たとえ自分が大失敗をしても、罪を犯しても、それは、主は、取り除いてくださいました。だから、何か駆り立てられて約束をする必要はないのです。二つ目は、自分の肉は自分がキリストの十字架に共に付けられていることを知ることで。自分には何一つ良いものはない、だから自分は十字架に付けてしまいます。そしてようやく、御霊によって実を結ぶことができます。もはや約束によって自分の姿を隠す必要はなくなりました。主の前にへりくだって、主と共に歩み、公義を愛すること。これさえしていれば、必ず実を結びます(ミカ 6:8 参照)。

## 2C 神の警告 7-22

### 1D 二つの道 7-18

42:7 十日の後、主のことばがエレミヤにあった。

エレミヤが彼らから相談を受けて、すぐに主から答えがあったわけではありませんでした。「十日」経ったとあります。十という数字は聖書の中で「試み」を表す言葉としてしばしば登場します。ダニエルは、十日の間、野菜だけを食べさせて私たちを試してください、と言いました(ダニエル 1:12)。スミルナの教会の人々は、牢に入って十日間、苦しみを受けると主は言われました(黙示 2:10)。彼らは、この十日間で、エジプトに行くという思いを固めたのだと思います。本当は、全てを主に任せて、主を賛美して、主に感謝して、そうやって礼拝をしつつ、主がなされることに自分自身を用意していなければいけませんでした。それはやらず、エジプトに行く決心を固めたのでした。

42:8 彼はカレアハの子ヨハナンと、彼とともにいるすべての将校と、身分の低い者や高い者をみな呼び寄せて、42:9 彼らに言った。「あなたがたが私を遣わして、あなたがたの願いを御前に述べさせたイスラエルの神、主は、こう仰せられる。42:10 『もし、あなたがたがこの国にとどまるな



ら、わたしはあなたがたを建てて、倒さず、あなたがたを植えて、引き抜かない。わたしはあなたがたに下したあのわざわいを思い直したからだ。42:11 あなたがたが恐れているバビロンの王を恐れるな。彼をこわがるな。・・主の御告げ。・・わたしはあなたがたとともにいて、彼の手からあなたがたを救い、彼の手からあなたがたを救い出すからだ。42:12 わたしがあなたがたにあわれみを施すので、彼は、あなたがたをあわれみ、あなたがたをあなたがたの土地に帰らせる。』

エレミヤは、主の言葉を告げましたが、ここにはすばらしい約束が含まれています。これまでの預言は、主が彼らを引き抜く、というものでした。主の約束された土地から引き抜くという約束でした。それが、そうではない、思い直したということです。これは、私たちが新しい契約を学んだ時に知りましたね。神は、すべての怒りを満たされたので、神の側で幸いの計画を立てておられるのです。当時はエルサレムの破壊において、それを示されましたが、究極的にはキリストの十字架で神は示されました。ですから、私の罪のために残されている怒りはもはやないのです。ただ、幸いな約束しかないのです。

ゆえに、恐れてはならないのです。主が幸いを与えると言っているのですから、バビロンの王の怒りからも救われます。同じように、神がキリストにおいてご自分の怒りを置かれたのですから、どんな悪魔の怒りからも私たちは救われているのです。そして、ユダヤ人たちが戻るという約束を確認しておられます。ですから、彼らが七十年辛抱していれば、彼らがこの地に戻るだけでなく神殿を再建するのを見ることになります。同じように私たちは、辛抱して天から主が降りてこられるのを待つのです。

42:13 しかしあなたがたが、『私たちはこの国にとどまらない。』と言って、あなたがたの神、主の御声を聞かず、42:14 『いや、エジプトの国に行こう。あそこでは戦いに会わず、角笛の音も聞かず、パンにも飢えることがないから、あそこに、私たちは住もう。』と言っているのなら、42:15 今、ユダの残りの者よ、主のことばを聞け。イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。『もし、あなたがたがエジプトに行こうと堅く決心し、そこに行って寄留するなら、42:16 あなたがたの恐れている剣が、あのエジプトの国であなたがたに追いつき、あなたがたの心配しているききんが、あのエジプトであなたがたに追いつき、あなたがたはあそこで死のう。42:17 エジプトに行ってそこに寄留しようと決心した者たちはみな、そこで剣とききんと疫病で死に、わたしが彼らに下すわざわいのがれて生き残る者はいない。』

先ほど言いましたように、この十日間で、彼らは既にエジプトに下ることを堅く決心していました。ですから、先ほどの主の御心を伺うための彼らが来たことは、ただエレミヤから同意を得るためだけのものとなってしまったのです。これは、しばしば相談に来る人々にあることです。助言を求めに来るのですが、助言を求めているのではなく、同意を求めていることがしばしばあります。

けれども、彼らが何でエジプトに下ることを堅く決心したのか？午前礼拝で学びましたが、その

決心の裏側には「恐れ」があります。「戦いに会わず、角笛の音も聞かず、パンにも飢えることがない」と彼らは言っていますが、エルサレムをバビロンが包囲していた時、嫌になるほど経験していたものでした。朝起きれば、バビロンの角笛の音を聞かなければいけなかったのです。そして、「あそこに、私たちは住もう。」と言っています。安住できる地を求めていました。この二つが私たちにとって霊的な敵です。恐れて動くこと。そして、問題がないところに逃げることです。解決方法は、主の中に隠れ、非難することです。

そして、恐れるとその恐れが付いてきます。16 節に書かれていますね。ここに書かれている、エジプトの所に剣と飢饉と疫病が来るのは、紀元前 567 年のことになります。バビロンがエジプトを攻めてくるからです。エルサレムで起こったことが、エジプトでも起こるのです。彼らはバビロンから逃げているつもりで、実はバビロンの襲っていくところに自ら入り込んでいくのです。これが恐れの姿であります。

42:18 まことに、イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。『わたしの怒りと憤りが、エルサレムの住民の上に注がれたように、あなたがたがエジプトに行くとき、わたしの憤りはあなたがたの上に注がれ、あなたがたは、のろいと、恐怖と、ののしりと、そしりになり、二度とこの所を見ることができない。』

主の幸いな計画の中に留まることが、救いですが、そこから離れれば、必ず神の怒りが来ます。これは新しい契約の中では、キリストの十字架の中に留まれば、そこに救いがありますが、そこから離れれば、贖罪のいけにえはどこにも残されていません。彼らは、もう二度とユダの地に戻ることはできませんが、キリストから離れては永遠の命の約束はありません。

## 2D 迷い出た心 19-22

42:19 ユダの残りの者よ。主はあなたがたに『エジプトへ行ってはならない。』と仰せられた。きょう、私があなたがたにあかしたことを、確かに知らなければならない。42:20 あなたがたは迷い出ている。あなたがたは私をあなたがたの神、主のもとに遣わして、『私たちのために、私たちの神、主に祈り、すべて私たちの神、主の仰せられるとおりに、私たちに教えてください。私たちはそれを行ないます。』と言ったのだ。42:21 だから、私は、きょう、あなたがたに告げたのに、あなたがたは、あなたがたの神、主の御声を聞かず、すべてそのために主が私をあなたがたに遣わされたことを聞かなかった。42:22 だから今、確かに知れ。あなたがたは、行って寄留したいと思っているその所で、剣とききんと疫病で死ぬことを。」

主は人々の心の中をすべて知っておられます。彼らが神に偽り、エレミヤを偽り、実に自分自身たちをも欺いていることを指摘しておられます。

## 2B 真実への反発 43

### 1C 高ぶった者たち 1-7

43:1 エレミヤはすべての民に、彼らの神、主のことばを語り終えた。それは彼らの神、主が、このすべてのことばをもって彼を遣わされたものであった。43:2 すると、ホシャヤの子アザルヤと、カレアハの子ヨハナンと、高ぶった人たちはみな、エレミヤに告げて言った。「あなたは偽りを語っている。私たちの神、主は『エジプトに行つて寄留してはならない。』と言わせるために、あなたを遣わされたのではない。43:3 ネリヤの子バルクが、あなたをそそのかして私たちに逆らわせ、私たちがカルデヤ人の手に渡して、私たちを死なせ、また、私たちをバビロンへ引いて行かせようとしているのだ。」

彼らを「高ぶった人たち」と呼んでいます。聖書において高ぶっているという言葉は、人に対してはあまり使われません。神に対しての高ぶりです。人に対してはある意味、ヨハナンはとても誠実ですね。多くの人が誠実な態度を見せません。しかし、人は主の前に出て、初めてその魂が砕かれます。そのまま出て行く人が砕かれるのです。初めは誠実に見えても、主の言葉が語られるに従って、反抗し、反発してくる、神に対する心が明らかにされています。繰り返しますと、誠実に生きていこうとすればするほど、その高ぶりの心はますます高まってくるでしょう。なぜなら、神の願われているのは、そうした犠牲ではなく、砕かれた魂だからです。「神の力強い御手の下にへりくだりなさい。(1ペテロ 5:6)」とあります。神の主権の中に自分の身をゆだねることこそが謙遜です。

彼らはバルクまで持ち出しました。エレミヤの預言の筆記をしている人ですね。彼に影響されて、あなたはそんなことを語っているのだと言っていますが、どこからそういう発想が出てくるのか。言いがかりですが、この前学びましたように、人は神の言葉に反抗する時に、その言葉を伝えている人に反抗します。ここではエレミヤを預言者に立てている以上、エレミヤ以外に非難の矛先を向けたのです。

43:4 カレアハの子ヨハナンと、すべての将校と、すべての民は、「ユダの国にとどまれ。」という主の御声に聞き従わなかった。43:5 そして、カレアハの子ヨハナンと、すべての将校は、散らされていた国々からユダの国に住むために帰っていたユダの残りの者すべてを、43:6 男も女も子どもも、王の娘も、それに、侍従長ネブザルアダンが、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤに託したすべての者、預言者エレミヤと、ネリヤの子バルクをも連れて、43:7 エジプトの国に行った。彼らは主の御声に聞き従わなかったのである。こうして、彼らはタフパヌヘスまで来た。

この記録は悲劇の記録です。「主の御声に聞き従わなかった。」と繰り返されています。そして全ての人を引き連れています。「王の娘も」とありますが、ゼデキヤ王の息子たちは殺されています。そして、エレミヤもバルクも無理やり連れて行きました。そして「タフパヌヘス」はエジプトの国境にある要塞の町です。

## 2C エジプトにおけるバビロンの王座 8-13

43:8 タフパヌヘスで、エレミヤに次のような主のことばがあった。43:9 「あなたは手に大きな石を取り、それらを、ユダヤ人たちの目の前で、タフパヌヘスにあるパロの宮殿の入口にある敷石のしっくいの中に隠して、43:10 彼らに言え。イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。見よ。わたしは人を送り、わたしのしもべバビロンの王ネブカデレザルを連れて来て、彼の王座を、わたしが隠したこれらの石の上に据える。彼はその石の上に本営を張ろう。

再び主は、エレミヤに実演の預言を行なわせました。パロの宮殿はエジプト中にあるのですが、タフパヌヘスにもあります。宮殿の入口の敷石の下に、大きな石を隠しなさいと主は命じられました。ちょうどここに、ネブカデネザルが座を据える、本営を張ると預言したのです。そして事実、先ほど話したようにネブカデネザルは紀元前 567 年に起こりました。近年、フリンダーズ・ペトリックという考古学者が、この町を発掘し、宮殿の入口の敷石とその下にある大きな石を見つけました。エレミヤの言葉が実現したことを裏付けるものです。

43:11 彼は来てエジプトの国を打ち、死に定められた者を死に渡し、とりこに定められた者をとりこにし、剣に定められた者を剣に渡す。43:12 彼はエジプトの神々の宮に火をつけて、それらを焼き、彼らをとりこにする。彼は牧者が自分の着物のしらみをつぶすようにエジプトの国をつぶして、ここから無事に去って行こう。43:13 彼はエジプトの国にある太陽の宮の柱を砕き、エジプトの神々の宮を火で焼こう。」

エジプトでのバビロン捕囚の預言です。ユダの町々とエルサレムの神殿に行ったように、バビロンはエジプトの各地を襲い、彼らの偶像の宮をことごとく潰していきます。エジプトでは、太陽の神は主要な神の一つです。エジプトに行けば、古代エジプトの絵の中に数多く、太陽神ラーが出てくるのを見ます。ヘリオポリスという信仰の中心地があり、そこに神殿もたくさんあるのですが、おそらくここは、その町が火で焼かれたことを言及しているのでしょう。

このように最後の最後まで主は語られました。そして最後の最後までユダは拒みませんでした。民を愛している神と、拒むユダとの悲しい話です。私たちはどこで立ち止まり、神に立ち返ることができるでしょうか？しかし今、立ち止まることができます。キリストの十字架のところに来ましょう。